

すべての革新は患者さんのために

中外製薬株式会社

会社案内



人の想像が及ばないところにこそ、  
人々が待ち望んでやまない  
新しい世界の始まりがある。

だからこそ私たちは、国の壁を取り払い、  
世界中の技術とノウハウを結集して  
常識とたたかい続ける。

同じ病気の人が100万人いれば、  
100万通りの答えを目指す。  
医師や医療機関とともに、  
病気に苦しむ人々に新たな希望を届け続ける。

なんでもない1日を守り抜くために、  
今日も新たなイノベーションを。

できそうもない薬でなければ、  
私たちが生み出す意味はない。

創造で、想像を超える。

すべての革新は患者さんのために  
 CHUGAI 中外製薬  
 ロシュグループ



# ミッションステートメント

中外製薬グループは、ミッションステートメント(=企業理念)をすべての企業活動の根幹としています。「存在意義」は、中外製薬の不変の最重要概念であり、関東大震災後の薬不足を憂いた創業者が「世の中の役に立つ薬をつくる」と誓った「創業の精神」を受け継いでいます。「価値観」は、社員が共有し体現していく価値です。フロンティア精神を持ち、イノベーションの追求を続けながら、社会の期待や要請に応えるべく常に誠実であること。それによって、一人ひとりの患者さんに貢献していくことを明示しています。「目指す姿」では、今後の医療を取り巻く環境変化を踏まえ、「製薬ビジネス」の枠組みを超えて、ヘルスケア産業の「トップイノベーター」を目指すことを掲げています。こうした「共有価値の創造」を通じたミッションステートメントの実現こそ、中外製薬の価値創造の姿です。



## 存在意義 / Mission

革新的な医薬品とサービスの提供を通じて  
新しい価値を創造し、  
世界の医療と人々の健康に貢献します



## 価値観 / Core Values

### 1. 患者中心 / Patient Centric

患者さん一人ひとりの健康と幸せを最優先に考えます

### 2. フロンティア精神 / Pioneering Spirit

自らを磨き、新たな発想で、イノベーションを追求します

### 3. 誠実 / Integrity

常に誠実な行動で、社会の期待に応えます



## 目指す姿 / Envisioned Future

ロシュとの協働のもと、  
独自のサイエンス力と技術力を核として、  
患者中心の高度で持続可能な医療を実現する、  
ヘルスケア産業のトップイノベーターとなります

## INDEX

ミッションステートメント P.2-3

### 中外製薬について

中外製薬の歩み P.4-5

中外製薬のビジネスモデル P.6

数字でわかる中外製薬 P.7

中外製薬が目指す姿 P.8-9

### 中外製薬のイノベーション

創薬力 P.10-11

PHCソリューション P.12-13

デジタルトランスフォーメーション(DX) P.14-15

中外製薬のサステナビリティ P.16-19

### 会社情報

ネットワーク P.20

会社概要 P.21

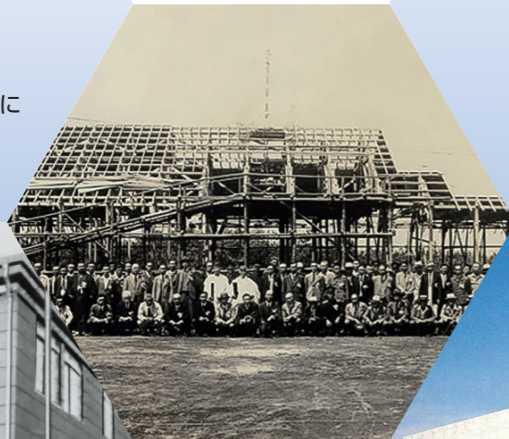
# 中外製薬について 中外製薬の歩み

中外製薬は1925年に産声を上げました。その後、研究所や工場の建設など経営の近代化を着々と進め、さまざまな製品を通して、日本をはじめ世界の医療に貢献してきました。  
創業以来、連続的なイノベーションの創出により事業構造や業態の革新を図り、幾多の困難を乗り越えてきた中外製薬の歴史を振り返ります。

## 創業～1930年代

震災による医薬品不足の解決に向け、「世の中に役立つ薬をつくる」という使命感を抱き創業

創業から一貫して続く、世界を視野に人々の健康に貢献する志



## 1960～1970年代

大衆薬から医療用医薬品へ

医療用医薬品に注力する戦略で未来への種を撒く



## 1980～1990年代

未来の医療に向けて、バイオ技術に挑戦  
化学合成からバイオによる創薬への挑戦  
今日の強みの礎を築く



## 2000年代

ロシュとの戦略的アライアンスを開始  
戦略的アライアンスで競争力を高め、トップ製薬企業へ



## 2030

ヘルスケア産業のトップイノベーターへ  
国産初の抗体医薬品を発売。連続的な革新的医薬品創出  
中外製薬の創薬力を証明する抗体エンジニアリング技術の進化



医療の新しい潮流、個別化医療の普及促進

日本の個別化医療を牽引し、社会に高い価値をもたらす



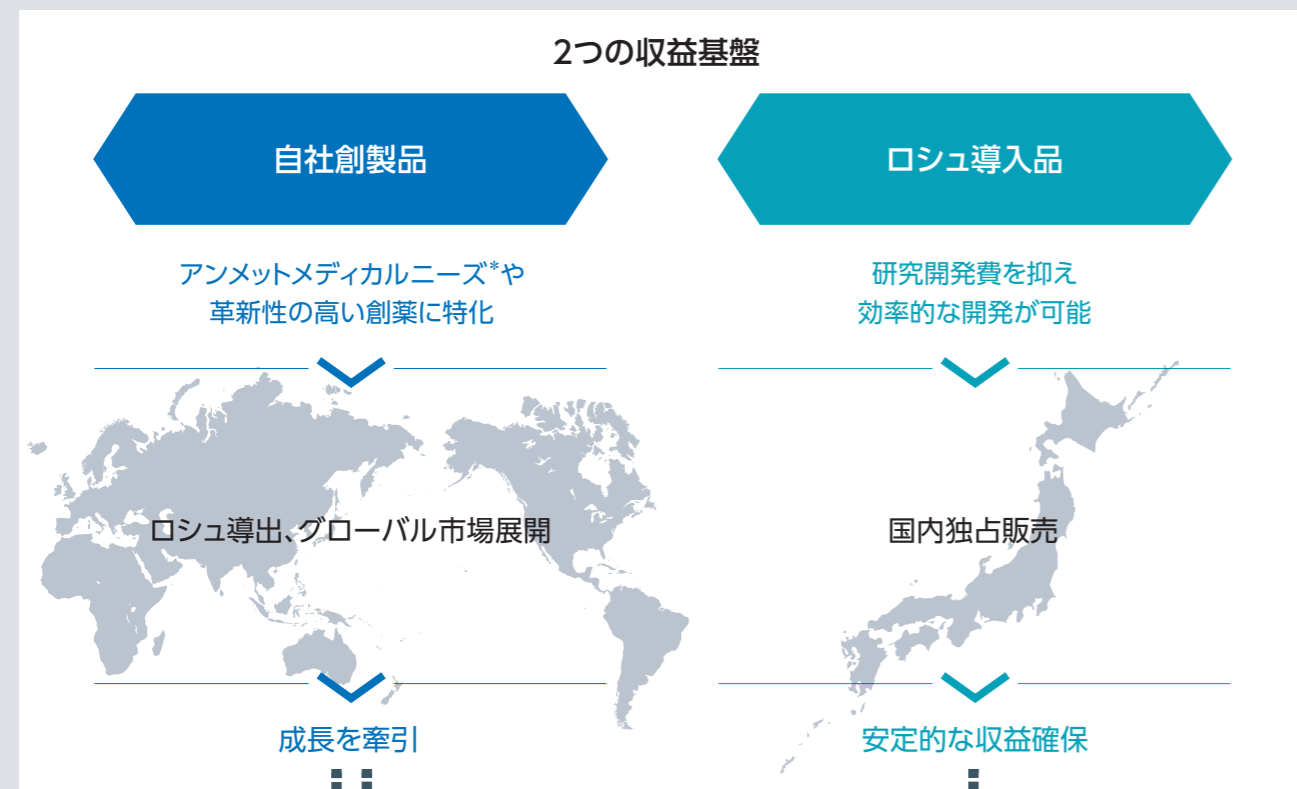
## ロシュについて

ロシュは、1896年に設立されたスイスのバーゼルに本拠地を置く製薬企業です。「医薬品」と「診断薬」の2つの事業を主軸とし、幅広い領域で医療に貢献しており、中でも、バイオマーカーや診断薬を用いて、効果が見込める患者さんに適切な薬剤を選択する「個別化医療」をグループ戦略の中心に据えています。

また、2002年に中外製薬と戦略的アライアンスを開始し、中外製薬の株式の過半数を保有する株主となりました。世界屈指のバイオテクノロジー企業として知られている米国のジェネンテック社もロシュグループの一員です。

# 中外製薬のビジネスモデル

中外製薬はロシュ・グループの一員でありながら、自主独立経営を維持し、独自性と多様性を重視してイノベーションに集中する独自のビジネスモデルを展開しています。ロシュとの戦略的アライアンスにより、中外製薬はロシュの画期的な新薬を国内で独占的に販売することができ、この安定的な収益基盤により、革新性の高い独自技術や創薬への集中投資が可能となります。こうして生まれた自社創製品をロシュに導出することで、ロシュのインフラを通じてグローバル市場に展開し、当社の成長を牽引しています。一方、ロシュにとっても、革新的な研究に特化した中外創製品をグローバル市場で販売することができ、両社の強みを活かしたWIN-WINの関係を構築しています。



グローバル成長

パイプラインの充実

国内での抗体医薬品における高いプレゼンス

\* いまだに有効な治療方法が無く、十分に満たされていない医療ニーズのこと

# 数字でわかる中外製薬

## 研究開発型製薬企業

がん領域の国内売上シェア

**No.1\***

抗体医薬品の国内売上シェア

**No.1\***

\* Copyright © 2024 IQVIA.  
出典：医薬品市場統計 2023年12月 MATをもとに作成  
無断転載禁止 市場の範囲は中外製薬定義による

## 強い財務基盤

(2023年12月期)

売上収益\*

**1兆1,114億円**

営業利益\*

**4,507億円**

\* Coreベース実績 (国際会計基準 (IFRS) 実績から、当社が非経常的ととらえる事象にかかる損益等を除いたもの) で表記

## 革新的な医薬品を世界へ

Breakthrough Therapy\* 指定 **9回**

自社のグローバル承認国数 **110カ国以上**

\* 重篤または致命的な疾患や症状を治療する薬の開発および審査を促進することを目的に、2012年7月に米国食品医薬品局 (FDA) にて導入された制度

## 患者中心の高度なソリューション提供

顧客満足度評価 (がん領域、MR以外からの情報入手) **No.1\***

顧客満足度評価 (安全性情報提供) **No.1\***

\*1 MCI DIGITAL「医師版マルチメディア白書2023年春号」がん診療医師対象 インターネット総合1位に基づく  
\*2 インターゲルスケア「2023安全性情報ニーズ把握のためのアンケート調査」の全回答者合計結果に基づく

## イノベーションの源泉は「人財」

(2023年12月末時点)

従業員数 (連結)

**7,604名**

女性マネジャー比率\*1

**17.2%**

男性育児休職取得率\*2

**87.6%**

一人当たり人財開発投資額\*3

**25.6万円**

\*1 部下のいる管理職、国内中外製薬グループの在籍ベース

\*2 単体の有価証券報告書ベース

\*3 2023年単体年ベース

## 地球環境保全に向けて

(2023年12月時点)

エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量 (Scope 1+Scope 2\*1) 2019年比 **55.0%\***削減

\*1 Scope 1: 自社による直接排出量、Scope 2: 他社から供給された電力などのエネルギー起源間接排出量

\*2 電力会社が提供するサステナブル電力および購入済みのグリーン電力証書・非化石証書の活用分も含めた実質的な削減率

# 中外製薬が目指す姿

中外製薬はロシュとの協働のもと、「革新的新薬」を事業のコアに据えながら、製薬企業に限らず多様なプレイヤーがイノベーションに挑戦する世界のヘルスケア領域においてトップイノベーターを目指しています。

## 2030年 トップイノベーター像



### 世界の患者さんが期待する

世界最高水準の創薬力を有し、世界中の患者さんが「中外製薬なら必ず新たな治療法を生み出してくれる」と期待する会社



### 世界の人財とプレイヤーを惹きつける

世界中の情熱ある人財を惹きつけ、ヘルスケアにかかわる世界中のプレイヤーが「中外製薬と組めば新しい何かを生み出せる」と想起する会社



### 世界のロールモデル

事業活動を通じたESGの取り組みが評価され、社会課題解決をリードする企業として世界のロールモデルである会社

## 成長戦略「TOP I 2030」

「TOP I 2030」は、2030年に当社が到達すべき姿を起点にバックキャストして描いた成長戦略です。「世界最高水準の創薬実現」と「先進的事業モデルの構築」を2つの大きな柱に据え、この戦略を成功させるキードライバーとして、「RED\* SHIFT」「DX」「Open Innovation」の3つを特定しました。価値創造の源泉である創薬研究と早期臨床開発に経営資源をシフトするとともに、デジタルの活用による革新的な新薬創出やバリューチェーンの効率化、外部連携に積極的に取り組みます。そして、2030年にはR&Dアウトプットを倍増し、自社グローバル品を毎年上市できる会社を目指しています。

\* Research (研究)とEarly Development (早期開発)の総称



## 「R&Dアウトプット 倍増」・「自社グローバル品 毎年上市」

### 世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ R&Dアウトプット倍増により毎年自社グローバル品上市
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

### 先進的事業モデルの構築

- ▶ デジタルを核としたモデル再構築による患者さんへの価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したインサイトビジネスの事業化

Key Drivers ▶ DX ▶ RED SHIFT ▶ Open Innovation

# 中外製薬のイノベーション 創薬力

## アンメットメディカルニーズへの挑戦

中外製薬はアンメットメディカルニーズを解決するために、バイオ・抗体技術や標的分子探索技術等の強みを活かして、独自性の高い医薬品を生み出してきました。画期的な医薬品を世界中の患者さんにいち早くお届けしたいという強い想いのもと、中外製薬は常に新たなサイエンス、技術や疾患領域に挑戦し、イノベーションを追求しています。

## 創薬アプローチの特徴

中外製薬の創薬の特徴は「技術ドリブン」です。特定の疾患領域に焦点を絞り創薬に取り組むというアプローチとは異なり、中外製薬独自の「技術」を開発し、その技術を医薬品に適用するという研究者の発想とものづくりの技術力により、患者さんに新しい価値を提供できる革新的な新薬を連続的に創出することを目指しています。中外製薬の研究部門には、ロシュとの協業によるメリットや産学連携によるオープンイノベーションなど、他社にはない強みがあります。これらのネットワークも活用しながら、疾患の原因分子を解明することで創薬ターゲットを選定しています。



## 中外製薬のモダリティ

中外製薬は、独自の抗体エンジニアリング技術の進展をはじめ、低分子や中分子など多様な創薬モダリティ(治療手段の分類)による研究基盤を背景とした高い創薬力が世界的に評価されています。独自の創薬技術に磨きをかけ、さらに、外部の技術も柔軟に取り込むことでマルチモダリティ戦略を展開していきます。

### 抗体医薬品

抗体医薬品とは、私たちの免疫システムにかかわる物質である抗体の働きを応用した医薬品です。特定のターゲットをピンポイントで狙うため、副作用の少ない医薬品として期待されています。中外製薬は、国内でいち早くバイオ医薬品の研究開発に取り組み、国産初の抗体医薬品を創製。抗体医薬品の可能性をさらに広げる独自の抗体エンジニアリング技術を駆使し、新たな創薬につなげています。

### 中分子医薬品

中分子医薬品は、低分子と抗体(高分子)の間に位置づけられる化合物で、特異性が高く、細胞内のターゲットにも結合でき、経口投与が可能といった特徴があり、低分子と抗体医薬のメリットをあわせ持つ次世代の医薬品として期待されています。中外製薬では10年以上前から経営資源を投下し、競争優位性を有する独自の中分子技術を確立しています。

 [研究・開発]  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/rd/>

## 中外ライフサイエンスパーク横浜

中外ライフサイエンスパーク横浜(中外LSP横浜)は、富士御殿場研究所と鎌倉研究所に分散していた創薬研究機能を統合した研究拠点です。約1,000人が働くこの研究所では、実験エリアと居室を結ぶ300mの廊下「スパイン」を中心に、研究者同士の活発なコミュニケーションにより、新たなイノベーションが生まれる機会を創出するデザインとしています。これまで進めてきた抗体や中分子研究におけるAI創薬や、国内製薬会社初導入となる「クライオ電子顕微鏡装置」など最先端技術の活用に加え、自動化機器間を連携する自走式モバイルロボットを導入し次世代ラボオートメーションの構築に取り組むなど、創薬プロセスの変革を目指しています。

 [中外LSP横浜]  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/lsp/>



中外ライフサイエンスパーク横浜

# PHCソリューション

## 患者さん一人ひとりに最適な価値を提供する

サイエンスやデジタルの急速な進展により、ヘルスケアへの期待とニーズは、医薬品のみならず周辺治療へと広がり、そのソリューションも、デジタル技術を中心とした、患者さん一人ひとりに応じた価値提供へと手段が拡充しています。中外製薬は、社会が求める「ヘルスケアの提供価値への期待」に応えるため、PHCソリューション\*の開発から実用化を目指しています。患者さんと革新的な医薬品の間を繋ぎ、患者さん一人ひとりに最適化された提供価値の最大化に貢献していきます。

\* 病態や治療効果を精緻に診断・測定することで、個々の患者さんに最適な治療を可能とする製品・サービス

## デジタルバイオマーカーへの取り組み

デジタルバイオマーカーとは、スマートフォンやウェアラブルデバイスから得られるデータを用いて、病気の有無や治療による変化を客観的に可視化する指標です。中外製薬では、複数の臨床開発プロジェクトにおいてウェアラブルデバイスを活用し、これまで取得できなかったリアルタイムでの患者さんの生理学的データを収集し、解析をしています。このようにデジタル技術を活用することにより、新薬の臨床開発プロセスの効率化・高度化、医薬品の価値証明、疾患理解などを進め、患者さんに新しい価値を提供していきます。



ウェアラブルデバイス  
スマートフォン

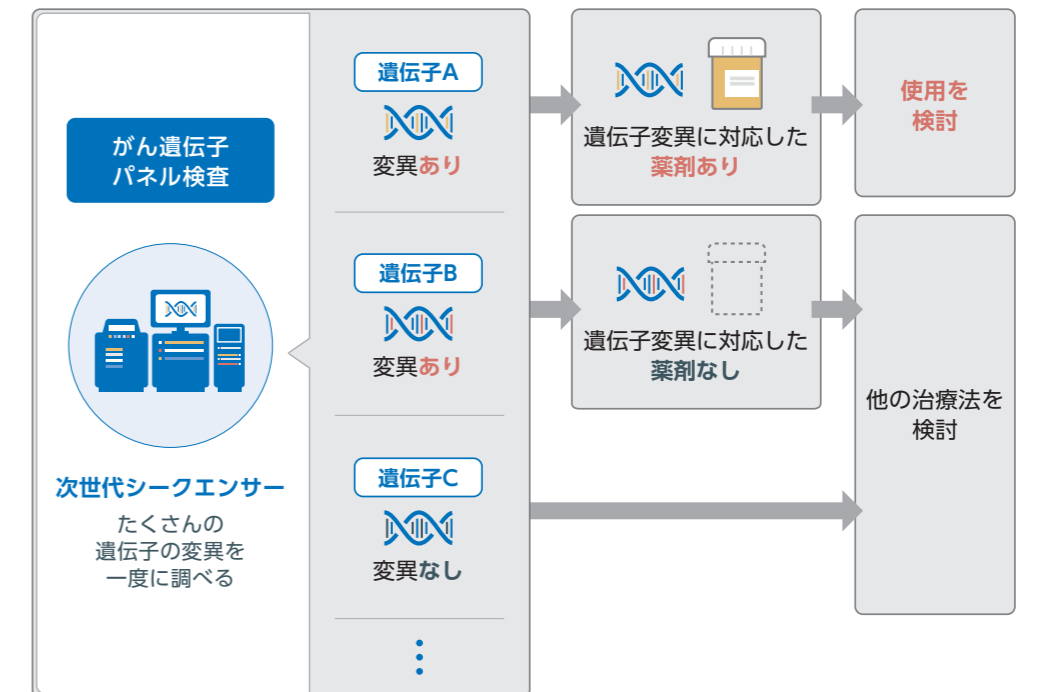
データ取得・解析

患者アウトカムの可視化  
医薬品の価値証明  
疾患理解

「デジタルバイオマーカーへの取り組み」  
[https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/digital\\_biomarkers.html](https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/digital_biomarkers.html)

## がんゲノム医療

従来のがん医療では、「体のどこにがんができたか?」に注目して、がんができた場所に応じて一律の治療を行ってききましたが、「がんゲノム医療」は一人ひとりのゲノム(遺伝子情報)の違いに合わせて診断や治療を行います。「がん遺伝子パネル検査」では、患者さんの遺伝子情報を「次世代シーケンサー」という装置で調べます。がんの原因となる遺伝子の変異が見つかった場合、その遺伝子の変化に対応した、患者さん一人ひとりに合った治療につながると期待されています。



「おしえて がんゲノム医療」  
<https://gan-genome.jp/>





# デジタルトランスフォーメーション (DX)

## DX 推進は Phase 2「ビジネスを変える」の最終盤へ

中外製薬は、成長戦略「Top I 2030」のキードライバーの一つであるDXの推進にあたって「CHUGAI DIGITAL VISION 2030」を策定し、「デジタル技術によって自らのビジネスを変革し、社会を変えるヘルスケアソリューションを提供するトップイノベーターになる」ことを掲げています。Phase 2「ビジネスを変える」も最終局面に移り、Phase 3「社会を変える」を見据えた取り組みを推進しています。

## DX実現へのロードマップ



## デジタルを活用した革新的な新薬創出

AIをはじめとした先端技術を活用して医薬品開発の成功確率を向上させるとともに、創薬プロセスの時間やコストを大幅に短縮し、圧倒的な効率化と革新を目指しています。また、中外製薬が強みとする疾患領域でのターゲット探索や、技術的な知見が豊富な各種モダリティでの分子設計においてAI創薬を推進し、中外製薬が独自に保有する大量のデータ解析に基づき、革新的な新薬創出を目指しています。

## すべてのバリューチェーン効率化

AIやロボティクス、AR/VRなどのデジタル技術を活用し、各部門・各機能のプロセスの大幅な効率化を目指します。例えば、「デジタルで生産業務を変革し、生産性を高めて人材を高付加価値化する」をコンセプトに、人とオペレーションのデータ連携・最適化を図るスマートファクトリーを浮間工場で実現しました。現在は、新しいオペレーションを支えるデジタル基盤を構築し、各施策および他拠点への展開を進めています。

## デジタル基盤構築

デジタル人材の採用や育成を積極的に進めるとともに、社員の自由な発想やチャレンジを形にする仕組みを設けています。例えば、「CHUGAI DIGITAL ACADEMY」という仕組みでは、データサイエンティストをはじめとするデジタル人材を体系的に育成しています。充実した講義・OJTによる実務への適用サポートといった社内コンテンツの提供に加え、社外での研修プログラムや人材交流、大学・研究機関との連携の中で、「ヘルスケア×デジタル」のスキル・経験を高めています。こうした取り組みを通して、新しい価値創出の基盤を確立していきます。

## リアルワールドデータの利活用

リアルワールドデータ (RWD) とは、電子カルテなど、日常の実臨床の中で得られる医療データの総称です。RWDをはじめとしたビッグデータを適切に活用することで、臨床試験では把握できなかった多様な背景を持つ患者さんの状況や診療の結果を理解し、一人ひとりに合った治療の実現に貢献していきます。

「リアルワールドデータの利活用」  
[https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/real\\_world\\_data.html](https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/real_world_data.html)



「DX銘柄」において  
「DXプラチナ企業2023-2025」に選定  
医薬品業界におけるDX銘柄への4年連続の選定は中外製薬のみ

「デジタルトランスフォーメーション “CHUGAI DIGITAL”」  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/digital/>

# 中外製薬のサステナビリティ

## 当社と社会の共有価値創造

## サステナビリティの取り組み

「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」に向けて

## 患者中心

中外製薬は「患者中心」を最優先の価値観に掲げています。患者さんを「ともに課題解決を行うパートナー」とし、患者さんとともに一人ひとりが最適な治療を選択できる医療の実現に向けてさまざまな活動に取り組んでいます。2020年から始まった患者団体と当社CEOとの「ダイアログ」では、患者団体との対話を通じて、それぞれの立場で感じている医療の課題の共有と解決に向けた意見交換を行っています。この活動は疾患領域を越え、医療関係者やアカデミアも参加するなど年々進化し、2023年は患者団体2団体と当社を含む製薬会社3社のトップによるダイアログを開催しました。ダイアログで挙げた課題解決への取り組みの一つとして、患者さんの声を創薬研究に取り入れる活動「PHARMONY\*」が始動しました。その後、全てのバリューチェーンで患者さんの声を取り入れる活動を再定義しました。そして、社員一人ひとりが「患者中心」の価値観に向き合い、行動変容につなげるために、患者さんと社員の対話企画「PHARMONY ONE」も開始しました。

\* 「Patients」「Pharma」「Harmony」を掛け合わせた造語。中外製薬が患者さん・ご家族の声を聞き、相互理解を目指しながら、共有価値創造に向けて取り組む活動の総称です。



企業価値  
拡大により  
当社の発展

=

患者中心の  
高度で持続可能な  
医療の実現

=

社会課題  
解決により  
社会の発展

アウトプット (企業価値向上への貢献)		提供価値 (社会へのインパクト)	
利益成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 革新的な医薬品の創出</li> <li>● 製品価値の提供・拡大</li> <li>● 付加価値向上・投資原資確保</li> </ul>	患者さん・医療関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 薬剤効果・安全性向上</li> <li>● QOLの向上</li> <li>● 一人ひとりに合った治療</li> </ul>
資本効率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 投下資源の効率化</li> <li>● 資本コストの低減・リスク低減</li> </ul>	国・地域・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続的な医療財政</li> <li>● 地域医療の発展</li> <li>● 地球環境保全</li> </ul>
見えない資産の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人的資本・知的資本の増大</li> <li>● ESG評価の向上</li> </ul>		

## 社会との共有価値の創造

中外製薬は、事業を通じて社会課題を解決し、さまざまなステークホルダーとともに発展していく「当社と社会の共有価値の創造」を経営の基本方針としています。当社が目指す「共有価値の創造」は、「患者中心の高度で持続可能な医療の実現」です。ユニークなビジネスモデルを最大限活用し、さまざまなステークホルダーと協働しながらイノベーションを連続的に創出し、世界の患者さんへ届けることで、グローバル成長を果たすとともに、投資原資を確保し力強い利益成長を目指します。このような活動を通じて、新しい価値を創造し、社会の持続可能性と発展に貢献することが私たちの使命です。

中外製薬は革新的な医薬品とサービスの提供により、患者さん一人ひとりに合った最適な治療の実現と、QOLの向上に貢献するとともに、持続的な医療財政や地域医療の発展に貢献していきます。さらには、環境負荷の低減や資源の効率的活用などを通じて、循環型社会の実現に寄与します。こうした取り組みにより、世界的なESG投資指数である「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」に4年連続で選定されており、医薬品セクターにおいては世界第2位の高評価を得ています。

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA

## 地球環境保全

中外製薬グループは、地球環境保全をすべての事業活動を支える重要な基盤ととらえ、世界的な環境コンセンサスを踏まえた挑戦的な「中期環境目標2030」を掲げ、ロシュや外部パートナーとの連携による革新的な地球環境保全活動とエビデンスに基づく能動的な情報開示により、環境課題の解決をリードする世界のロールモデルを目指しています。さらに、世界的に最重要テーマであり、長期的かつ大規模対策が必要となる気候変動対策については、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量ゼロを目指します。

気候変動対策と水セキュリティ分野の2部門で「A」リスト企業に選定



温室効果ガス削減目標で「SBT」認定を取得

## 社会貢献

中外製薬の社会貢献では、「医療」「福祉」「共生社会」「次世代育成」「地域社会」を優先分野とし、患者さん中心の持続可能な医療の基盤を支えるとともに、健康な社会を広げていくための取り組みを推進しています。医療体制が脆弱な低・中所得国を対象に、中外製薬の強み、技術、専門性を活かし、公的機関やNGO、業界団体と協業し、保健医療アクセスの持続的な向上を支援しています。「次世代育成」ではこれからの社会の担い手となる次世代に対して、科学やバイオテクノロジーへの興味・関心を高めてもらえるよう活動をしています。中外LSP横浜の「バイオラボ」では、小学生から高校生に向けた実験教室や科学教育プログラムを開催しています。さらに、自然環境の保全や地域コミュニティ活動を通じた、健やかな地域社会の形成や、スポーツや文化活動による共生を推進し、障がいの有無にかかわらず多様な人々がそれぞれに輝く健康な社会の実現に取り組んでいます。



## 人財

中外製薬は、イノベーションの源泉は「人」であり、人財こそ最大の資産ととらえています。なぜなら、社員一人ひとり、すなわち「個」が価値創造の原動力だからです。「個」の成長によるさらなるイノベーションの創出に向け、個の強化に必要な3つの個（描く・磨く・輝く）を掲げ、さまざまな取り組みを進めています。例えば、「個を描く」ために、上司や周囲との対話を促進する機会として「Check in(1on1)」を実施し、「対話」をベースにした自律支援に取り組んでいます。「個を磨く」では、挑戦・成長を後押しする仕組みづくりが重要ととらえ、自律的な学びの機会としてオンラインプラットフォームの導入や、キャリア開発、研修プログラムへの投資を行っています。「個が輝く」には、一人ひとりが自分らしさを発揮し、活躍できる環境が何よりも重要と考え、「働きがい改革」「健康経営」の推進、またダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の定着に向け取り組んでいます。D&I推進では、女性活躍推進のさらなる加速に加え、育児・介護と仕事の両立、女性の健康課題、LGBTQといった社員を取り巻くさまざまな課題に取り組み、異なる価値観やアイデアを持つ多様なすべての社員がいきいきと活躍し、成長できる環境づくりに注力しています。

個を描く

社員一人ひとりがキャリアを描き、未来の自己実現と「TOP1 2030」とをシンクロさせる

個を磨く

社員の自主性を尊重し、社員が挑戦し、自律的な学びや専門性を強化する

個が輝く

社員が自身の力を最大限に発揮し、挑戦によって成長が実現できる環境を整える

「健康経営銘柄」に初選定  
「健康経営優良法人2024・ホワイト500」に4年連続認定



プラチナくるみん



新・ダイバーシティ経営企業100選



なでしこ銘柄



PRIDE指標



えるぼし(3つ星)



「社外からの評価」  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/evaluation/>

# 会社情報 ネットワーク

## 国内ネットワーク (2024年4月1日現在)



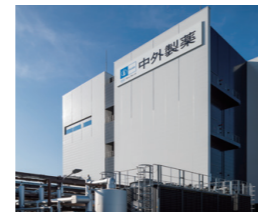
本社



浮間研究所・工場

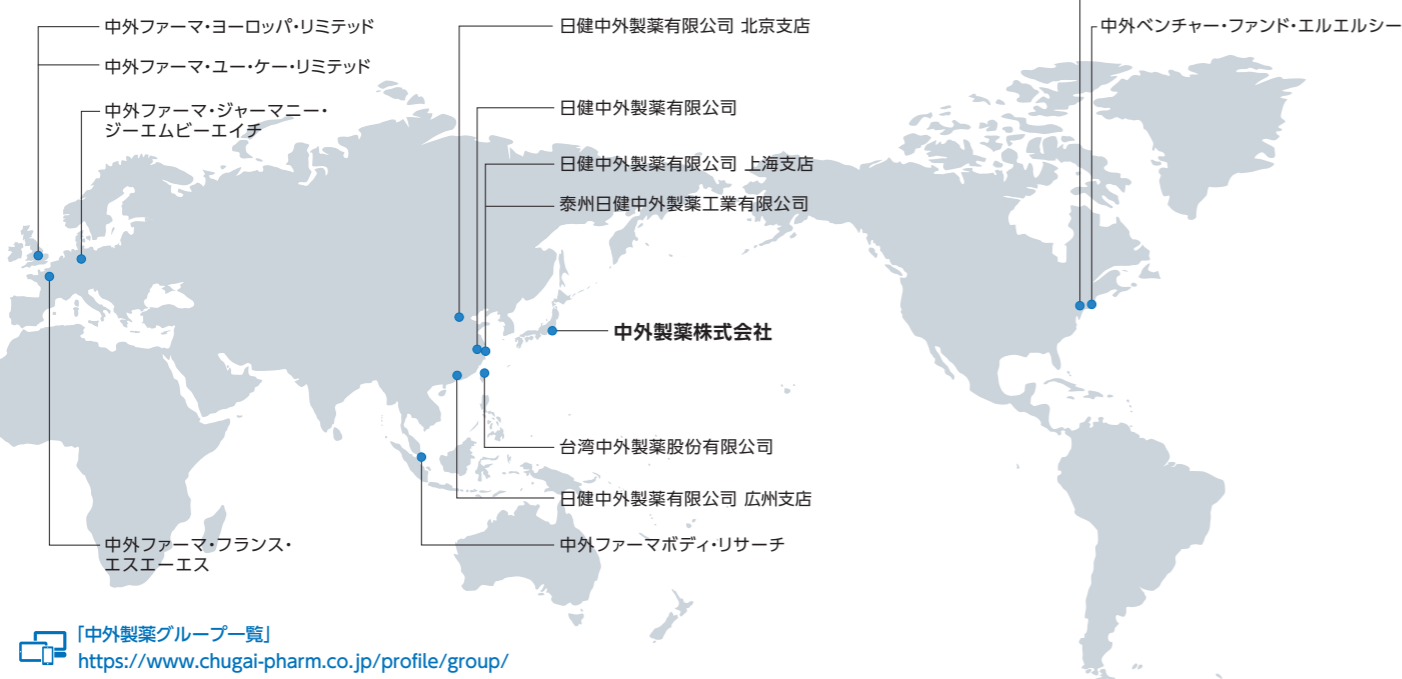


宇都宮工場



藤枝工場

## 海外ネットワーク (2024年4月1日現在)



「中外製薬グループ一覧」  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/group/>

### 中外ファーマボディ・リサーチ (CPR)

CPRはシンガポールに拠点を置く研究子会社で、抗体エンジニアリング技術ならびに中分子スクリーニングプラットフォームを構築・活用し、抗体や中分子のプロジェクト創出、新規技術開発に取り組んでいます。シンガポールの研究機関との協働によるオープンイノベーションを加速させ、創薬技術開発や新薬候補の連続的な創出に加え、同国のサイエンスエコシステムの発展に貢献することも目指します。



# 会社概要

## 会社概要 (2023年12月31日現在)

商号 中外製薬株式会社  
(CHUGAI PHARMACEUTICAL CO., LTD.)

創業 1925(大正14)年3月10日

設立 1943(昭和18)年3月8日

資本金 73,202百万円

決算日 12月31日

従業員数 7,604名(連結)

事業内容 医療用医薬品の研究・開発・製造・販売・輸出入

本社 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
日本橋三井タワー(受付12階)

### 2023年12月期Coreベース実績

売上収益	1兆1,114億円
営業利益	4,507億円
当期利益	3,336億円

「会社概要」  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/about/outline.html>

## ウェブサイトのご案内



コーポレートサイト  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/>



サステナビリティ  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/sustainability/>



株主・投資家の皆さま  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/ir/>



採用サイト  
<https://www.chugai-pharm.co.jp/recruit/new/>

X(旧 Twitter)  
[https://twitter.com/chugai\\_cc](https://twitter.com/chugai_cc)

note  
<https://note.chugai-pharm.co.jp>

YouTube / @Chugaijip

LinkedIn  
<https://www.linkedin.com/company/chugai/>

Talentbook  
<https://www.talent-book.jp/chugai-pharm/stories/>

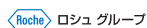


本冊子は責任ある森林管理を通して、資源を守る国際的な森林認証制度の一つであるFSC®(Forest Stewardship Council®: 森林管理協議会)の基準に基づいて生産された「FSC®森林認証紙」と、鉱物油を含まない「Non-VOCインキ」を使用しています。

すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社



ロシュグループ